

日本学術会議 法学委員会法曹養成と学術法制分科会(第25期・第4回)議事要旨

日時: 令和4年1月17日(月)午前10時30分～13時00分

開催場所: オンライン会議(ZOOM Meeting)

出席者: 山田、浅野、石田、岩谷、岡田、亀本、高山、中山、田口、新田、橋本、林、広渡、藤本、松尾、丸谷(敬称略、順不同)

議事概要

1. 田口正樹委員「学位の歴史と法曹養成」

田口正樹委員より、資料に基づき、上記の表題について、日本の法曹養成の現況を出発点とし、学位対競争試験という視点を踏まえ、近代日本と西洋中世における学位の歴史とその意義を中心とする報告があった。その後、質疑応答および意見交換をおこなった。質疑応答では、学位のような資格が有する意義は社会によって多様でありうることや、ドイツにおける法曹養成に関わる競争試験あるいは学位授与の運用について、示された。また近代日本における「学士」の状況やその導入の背景についても敷衍された。

2. 山田八千子委員「5年一貫コース」導入の法学部・法科大学院・研究者大学院への影響について—現在と未来—」

山田八千子委員より、資料に基づき、上記の表題について、法曹コースを設けている法学部や連携する法科大学院の一覧が示された上、5年一貫型コース設置という制度改革が法学部や法科大学院の教育に対し与える影響や研究大学院・研究者養成への想定される影響等の論点に関し、中央大学の状況に基づき報告があった。その後、山田委員が示したこれらの論点を中心として、分科会に所属する各委員から、委員の所属する法学部、法科大学院、研究者大学院について状況の報告があり、各大学の多様な状況が確認された。

3. 「意思の表出」の改革と今後の分科会活動について

山田委員長より、資料に基づき、今後の意見表出のプロセスについて説明があった。また、分科会活動の在り方について検討がなされ、2023年3月～7月頃のシンポジウム開催の可能性が示された。

4. その他

特になし。

以上